



標準的接種年齢と接種期間 ・ 日本小児科学会の考え方 ・ 注意事項



定期接種



任意接種



健康保険での接種

ワクチン	種類	標準的接種年齢と接種期間	日本小児科学会の考え方	注意事項
インフルエンザ菌b型 (ヒブ)	不活化	①-②-③はそれぞれ27-56日 (4-8週) あける ③-④は7-13か月あける	(注1) ④は12か月から接種することで適切な免疫が 早期に得られる。1歳をこえたら接種する	<ul style="list-style-type: none"> 定期接種として、①-②-③の間はそれぞれ27日以上、③-④の間は7か月以上あける 7か月-11か月で初回接種：①、②の後は7か月以上あけて③、1歳-4歳で初回接種：①のみ リスクのある患者では、5歳以上でも接種可能
肺炎球菌 (PCV13)	不活化	①-②-③はそれぞれ27日 (4週) 以上 あける ③-④は60日 (2か月) 以上あけて、 かつ、1歳から1歳3か月で接種		<ul style="list-style-type: none"> 7か月-11か月で初回接種：①、②の接種後60日以上あけて1歳以降に③ 1歳-23か月で初回接種：①、②を60日以上あける、2歳-4歳で初回接種：①のみ (注2) 任意接種のスケジュールは日本小児科学会ホームページ「任意接種ワクチンの小児 (15歳未満) への接種」を参照 [URL: http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=316]
B型肝炎 ユニバーサル ワクチン	不活化	① 生後2か月 ② 生後3か月 ③ 生後7-8か月 ①-②は27日 (4週) 以上、 ①-③は139日 (20週) 以上あける	家族内に母親以外のB型肝炎キャリアがいる場合は、 生後2か月まで待たず、早期接種が望ましい	(注3) 乳児期に接種していない児の水平感染予防のための接種、接種間隔は、ユニバーサルワクチンに準ずる
B型肝炎 母子感染予防のための ワクチン	不活化	① 生直後 ② 1か月 ③ 6か月		<ul style="list-style-type: none"> 母親がHBs抗原陽性の場合、出生時、ワクチンと同時にHB免疫グロブリンを投与するが、ワクチンの接種費用は健康保険でカバーされる 詳細は日本小児科学会ホームページ「B型肝炎ウイルス母子感染予防のための新しい指針」を参照 http://www.jpeds.or.jp/modules/activity/index.php?content_id=141